子どもの成長に応じた家庭での読書活動をしませんか

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課読書推進係

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を育むため、ご家庭で子どもの成長に応じた読書活動に取り組んでみませんか。

乳幼児期（０歳～６歳）「本に出会う」

＜３歳までの特徴＞

徐々に自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになるとともに、文字の存在を意識し、絵本に興味を示すようになります。

＜４歳以上の特徴＞

日常生活に必要な言葉が分かるようになり、かな文字も全部読めるようになってきます。

＜保護者に期待される役割（例）＞

この時期は、例えば、保護者などが絵本や物語を読み聞かせたり、ときには歌を歌ったりしながら、子どもが読書の楽しさを味わうことができるようにすることが考えられます。

小学生期（６歳～12歳）「本に親しむ」

＜小学生期の特徴＞

学年が進むにつれて、本への関心を高め、多くの本を読んだり、目的に合った本を読んだりするようになります。

＜保護者に期待される役割（例）＞

この時期は、例えば、日常生活や学校での学習などを通して疑問に思ったことなどを、本を活用して子どもと一緒に調べたり、公立図書館や書店に一緒に出かけて本を選んだりするなど、子どもと一緒にいろいろな本に親しみ、子どもと一緒に読書の楽しさを味わうことが考えられます。

中学生期（12歳～15歳）「本から学ぶ」

＜中学生期の特徴＞

多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。

＜保護者に期待される役割（例）＞

この時期は、例えば、子どもの趣味や興味・関心に応じた本を薦めたり、将来の夢や進路に関する本を子どもと一緒に探して読んだりするなど、読書が自分の生き方や社会との関わりがあることを子どもが実感できるようにすることが考えられます。

高校生期（15歳～18歳）「本と生きる」

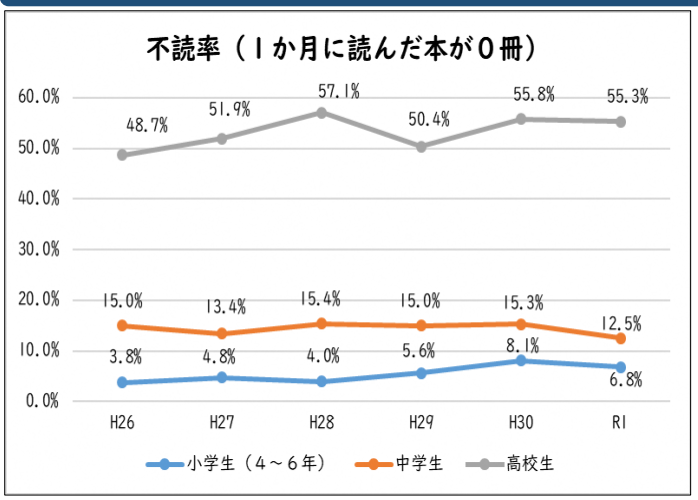
＜高校生期の特徴＞

読書の目的や資料の種類に応じて、適切に読むことができるようになってきます。

＜保護者に期待される役割（例）＞

この時期は、例えば、保護者と子どもが同じ本を読んで感想や意見を語り合うことや様々なジャンルの本を読んだり、目的に応じて本を選んで読んだりするよう子どもに薦めたりするなど、読書の幅を広げ、生涯にわたって読書に親しむことができるようにすることが考えられます。

【コラム】　中学生、高校生の不読率について



中学生から高校生へと学年が進むにつれて、不読率の割合が高くなる傾向にあります。読まない理由としては「普段から本を読まない」、「読みたいと思う本がない」、「部活動等で時間がない」、「ゲームやメール、SNS等をしていて時間がない」などが挙げられます。読書を促すために、例えば「テレビや映画の原作や関連の本」など子どもが親しみやすい本を薦めたり、「スマホの時間を短縮」、「10分早く起きる」など１日の生活時間を見直して読書の時間を生み出すよう促したりすることが考えられます。

日常生活を振り返ったり、読書の意義について子どもと話し合ったりしながら、子どもが主体的に読書に親しめるよう、コミュニケーションを深めてはいかがでしょうか。

子供の読書活動に関する現状と論点（文部科学省）、学校読書調査（全国学校図書館協議会）、平成26年度文部科学省委託調査「高校生の読書に関する意識等調査」報告書（株式会社浜銀総合研究所）を基に作成